

弘前大学理工学部後援会報

第 11 号

発行日 平成27年2月27日
 発行所 〒036-8561 弘前市文京町3
 弘前大学理工学部後援会(理工学部内)
 印刷所 (株) 笹 軽印刷
 連絡先 岡崎 雅明 (理事・教員)
 TEL : 0172-39-3565

会長ご挨拶

弘前大学理工学部後援会会長
 三 浦 賢 二



新年は大雪の中のスタートでした。異常気象と嘆くより、これが北国さと開き直るべきでしょうか。学生諸君は正月休みには早々に区切りをつけ、雪には負けず、学究に取り組み始めたのですね。

さて本年は、現在の理工学部になる前身の理学部発足五十周年にあたることから、秋には記念事業が計画され、準備が進められています。当後援会もその記念事業を同窓会とともに支援・協力することにしています。勿論、後援会本来の目的のための事業を充実させることが第一です。とはいいながら、近年、先生方の積極的なご指導もあり、学生諸君の研究発表が増え、旅費の支援希望が予算を大幅に超え、止むを得ず旅費の助成では減額措置もしなければならなくなっています。(東日本大震災以降、少し低下気味の)後援会への加入率の向上にもご協力いただくことが必要になっています。

開も期待されます。ところで、あの東日本大震災は皆さんの心に今も深く刻まれていることと思います。先般、私は偶然、NHKの正月特番(と思いきや、調べてみると昨年八月からのシリーズの再放送だそうですが)「巨大災害「地球大変動の衝撃、日本に迫る脅威、激化する豪雨」とコメントのついた再放送ものを観ました。ご覧になった方々も多いかと思っています。もともとのシリーズは①異常気象(暴走する大気と海の大循環)②スーパー台風(海の異変の最悪シナリオ)③巨大地震(見えてきた脅威のメカニズム)④火山大噴火(迫り来る地球規模の異変)と、地球環境学科に直結する内容でした。私が観たのは巨大地震に関する部分が主でしたが、とても恐ろしい印象を受けました。最近の異常気象傾向については地球温暖化とともに議論されることが多いようです。その中で、太陽活動の異変説(活動低下期間に突入か)があり、小氷河期に向かっているという研究者の見解に、私は今は太陽活動の異変情報の方が気懸かりです。対応できる術は何もありません・・・。

学生諸君は各自の専攻分野でそれぞれテーマをもって専門性を究めるチャレンジをされていると思います。それぞれの専門的な取組がやがて総合され人々の平和に貢献できると思います。学生諸君の活躍、そして弘前大学理工学部の更なる充実を祈念し、会員である保護者の皆様のご支援の結集に努めつつ期待申しあげるものです。

最近の理工学部の

動向について



大学院理工学研究科副研究科長
 理工学部副学部長 有 賀 義 明

弘前大学理工学部後援会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様には、平素より理工学部および大学院理工学研究科の教育・研究や就職対策等に対しまして多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

今年二〇一五年は、一九四五年の終戦から七十年、一九九五年の阪神・淡路大震災から二十年、二〇一一年の東北地方太平洋沖地震からは早いもので四年になります。歴史は繰り返すと言いますが、古今東西、震災も震災も繰り返されるのが歴史的事実になっています。こうした災いを繰り返さないようにするためには、平和や安全・安心に対する強いコダワリと不断の努力が必要不可欠ではないかと感じます。五年後の二〇二〇年には東京オリンピックが予定されています。一九六四年から五十六年ぶりの大イベントになりま

すが、たまに東京に出かけて行きますと、老朽化した高速道路や構造物群が目に入ります。また、人が多くて、首都圏一極集中がますます加速しているように感じます。これから、首都圏直下地震の発生が想定されていますが、自然現象だけは災害にはなりません。災害は自然現象と人間社会の相互影響の結果として現れます。自然現象の規模はそれほど大きくなくても、人間が形成する都市の人口密度や構造物・施設の密集度等によって災害の質と量は大きく変化します。将来に向けて、安全・安心な世の中を構築して行くことは喫緊の重要課題と思います。

ところで、少子高齢化社会への対応の必要性から、現在、全国の大学ではそれぞれの特色や強みを活かした改革が進められています。理工学部・理工学研究科に関しては、ミッションの再定義として、理学分野では、材料科学、気象学、宇宙物理学、生体情報科学、工学分野では、医用メカノインフォマティクス、地震・防災工学、地球資源・再生可能エネルギー、新物質創成の分野が認定されています。これらの分野をはじめとする強みを活かしながら、青森県に位置する国立大学として地域のニーズにあった教育・研究の推進が求められています。大学が地域社会の期待にこたえて行くためには、適正な危機感を持ちながら、そして、古今東西に通用する理念や理想を持ちながら、社会の役に立つ教育・研究・技術者育成を熱意を持って実践して行くことが必要ではないかと思っています。

大学改革が強く求められる中、理工学部・理工学研究科をより魅力的にし、その存在価値を高めて行くためには、後援会の皆様のご支援・ご鞭撻が必要不可欠だと思いますので、ご支援・ご鞭撻の程、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、後援会の皆様のご健康とご活躍を重ねてお祈りいたします。



理工学部保護者懇談会

(札幌会場)のご報告

理工学部学務主任 榊 真

平成二十六年九月二十日(土)に、北海道地区における理工学部保護者懇談会を、昨年と同じ会場の札幌駅前の「アスティ45」の十六階で開催しました。理工学部後援会の皆様方からのご支援により札幌会場の保護者懇談会を無事終えることができました。そのご報告をさせていただきます。

理工学部の学生の出身地は青森県と北海道が多く、四年前から、弘前会場の保護者懇談会に加えて、札幌でも保護者懇談会を開催するようになりました。参加される保護者の方も年々増え、今年は百二十四名の保護者の方にご参加いただきました。理工学部からは、研究科長を始め、副研究科長、就職対策委員長、学務主任、各学科長、他数名の教員、事務職員数名の体制で、翌日の北海道の高校生を対象とした進学相談会と合わせて、泊りがけで出かけました。

保護者懇談会は全体説明会と個別相談会の二部構成で、全体説明会では、研究科長による挨拶、就職対策委員長による就職・進路に関する説明、学務主任による成績評価に関する説明が行われました。就職・進路については、近年の状況、今後の変化、留意点、大学における支援体制など、さまざまな視点からの説明があり、また、成績評価については、個別相談会に先立つての準備として全体に共通する仕組みや注意点などの説明が行われました。

引き続き、六学科に分かれての個別相談会が始まりました。個別相談会へは九十三名の保護者の方が参加されました。成績表は半年ごとに学生本人に渡されますが、保護者の方への送付も行われています。送付された成績表をもとに、単位の取得状況、成績状況、普



全体説明会場

段の様子や状況、就職・進路状況について、など、さまざまな相談があります。ご両親で参加される場合や、帰省中の学生も来て三者面談になる場合などもあります。参加された保護者の方へはアンケート用紙が配付され、本懇談会へのご要望やお気づきの点などについて

記入いただいております。それらを参考にさらなる改善に努めていく所存ですので、今後ともご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。



個別相談会場

有機金属化学討論会に参加して

研究科物質創成科学コース

岡崎研究室 飯原 瑛 梨

昨年の九月に九州大学病院キャンパスにて行われた第六十一回有機金属化学討論会に参加し、発表してきました。私の研究テーマにおいて日本で最も大きな学会となります。今回、私はポスター発表を行いました。この学会は無機化学と有機化学の境界の領域である有機金属化学に関して、最先端の研究成果を発表、議論し、知識を深めあう場です。学会経験がない私にと

って、ポスター発表やひとり一分で行うショートトークの準備に四苦八苦しましたが、改めて自分の研究と向き合う良い機会となりました。

私の発表は(ヒドロシリル)アミド配位子を有する9族遷移金属錯体の合成、構造および反応性という内容で行いました。遷移金属は周期表に置いて、大きく前半と後半の二種類に分けられます。今回、後半に属する9族遷移金属のロジウムを用いて、窒素、ケイ素、水素がこの順番に結合した骨格を持つ配位子である(ヒドロシリル)アミド配位子を有する錯体の合成に成功しました。この錯体に関する実験、測定結果を、今後の方針と共にポスター発表を行い、議論してきました。

初めてのポスター発表は勉強する点が多く、また、自分の研究に関して多くの議論助言を頂くことができ、これからの研究の意欲に繋がりました。このような貴重な経験ができたのも、指導教員の岡崎雅明先生の適切なご指導と、この学会の参加に際し、旅費を援助してくださった弘前大学理工学部後援会のお陰です。深く感謝いたします。

国際会議に参加して

研究科知能機械工学コース

麓研究室 丹代 大 裕

二〇一四年八月三十一日から九月四日にかけてポルトガルのポルト大学で行われた、第二十回欧州熱物性会議(20th European Conference on Thermophysical Properties)に参加し、口頭発表を行いました。この会議は様々な物質の物性値、および、その測定法などについて、研究発表を行うもので、ヨーロッパ諸国からだけでなく、アジアやアメリカなど世界各国から多くの研究者が参加していました。

私は会議の二日目に「Thermophysical Properties

and Dispersing Stability of Phase Change Nanoemulsion」というタイトルで発表を行いました。発表内容としては、機能性ナノ流体である相変化ナノエマルションの熱物性の測定および既存の金属系ナノ流体との物性比較というものです。発表時間は質疑応答を含め十五分間と短い時間ではありましたが、国際会議の参加は初めてだったので、とても緊張しました。発表終了後には様々な国の方から意見やアドバイスを頂き大変参考になりました。

今回参加した国際会議では、発表や国内外の研究者との交流を通して、研究の面白さを改めて知ることができました。さらにプレゼンテーション能力・英語力の重要性を強く感じました。これらの経験を今後の学会発表に活かして行きたいと思っています。

最後に国際会議に参加するにあたり、弘前大学理工学部後援会に旅費を援助していただき、経済的な負担を軽減することができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。



「この冬は雪が多い」という会話がここ最近、毎年のように聞かれる気がします。今年も雪が多く、道路脇の除雪された雪は私の身長よりも高くなっています。ただ、今年は晴れの日も多く、そういった日は大変気持ちよく過ごすことができます。私事ですが、本学に着任して五年程が経ちます。本学には素直で潜在的に大きな可能性を秘めた学生さんがたくさん見受けられるように思います。後援会では、学生が継続的に日々の勉学に勤しみ、可能性を大きく開花させるお手伝いを行なっています。引き続き、皆様のご理解とご支援をいただくと幸いに存じます。（特別会員理事（教員） 岡崎雅明）